

平成24年度 第5回 河内長野市文化振興計画推進委員会 議事録

【日時】平成25年3月28日（木）午後7時30分～午後9時30分

【場所】市役所6階 602会議室

【出席者】

〈河内長野市文化振興計画推進委員会委員〉

谷 悟・千原 喜美・魚返 普子・川上 勝・小西 朋子・白井 春夫・寶楽 陸寛・
松村 千恵子・南 美鈴・山田 淳子・渡辺 正直・

〈事務局（河内長野市教育委員会事務局ふるさと文化課）〉

井上・東畑

〈オブザーバー（公益財団法人河内長野市文化振興財団）〉

萬木

【配布資料】

- ・平成24年度 第5回 河内長野市文化振興計画推進委員会次第
- ・資料1 平成24年度第4回河内長野市文化振興計画推進委員会議事録
- ・ラブリートニュース他

以上

谷委員長

こんばんは。お配りした議事録にあるように、前回の会議で天野酒造界限にておこなわれた「フード&クラフト 奥河内」なるイベントを仕掛けたグループが、おしゃれなフリーペーパーを発刊している準備を進めていることをお伝えしたが、それを今しがた手に入れた。民間で、やる気がある人達は、文化振興計画に縛られず、スピーディーに実践する。数ヶ月前にお話したことがすぐに形になっているという現実に少し驚いている。運営事務局のコアメンバーが女性であるということと、メインターゲットが20～30歳代の女性であることから、ガーリーなテイストとなっている。きれいな桜色のクーポンが帯のように入っている。これを発刊するために、市から助成金を得、文化振興計画の理念の下、奥河内のおもしろさをアピールしなければいけないという義務的なものではなく、自分達が共感を得たものをもっと多くの人達に伝えたいということだろう。実際に動き、それによって楽しみが倍増するという内容がここにはまとめられている。ただ、パッと見た感じでは、スタイリッシュだと理解できるが、あまり文化や芸術の匂いがしない。しかし、表紙には、「奥河内 info キレイ！ おけいこ！ 春スタート」としかなく、これはこれでよいと思う。私達の委員会はこのことをやろうとは思っていないが、これも市民文化という領域の中に入ると言えるだろう。また、単にお店を紹介しているものとは違い、本委員会でも話がでている文化数珠繋ぎ的なコーナーを設けている。これを制作している人達のネットワークを活かし、ユニークな人物を4名選び、その活動を紹介している。例えば、男のおつまみというものがあるが、農業から料理までを地産地消・食文化として捉えれば、豊かな地域文化、市民文化とも言えるだろう。また、モノを買ってもらい、コトに発展させることで、楽しむことに繋げ、ある程度、お金が循環する構造を生じさせている点にも注目したい。もっと深く知りたい人には、続きはwebでという記載があり、色々なメディアを連携させて、更なるネットワークが形成されるあり方も整っている。人や奥河内という地域に焦点をあてて、広義の意味での文化を推進させる点は興味深い。この種の作業を進める際には、内容の広さや質を検討するが、即実行するという早さも大切となろう。この面はどうしても行政や大学は弱いと言わざるを得ない。皆さんも委員として、どこかでこれを見かけたら、参照して欲しいと思う。

前回、文化振興を推進させる具体案ということで、地域資源の発掘とデータベースの作成をテーマに討議をしてきた。とりわけ、クリエイターの活動を把握するためのリサーチ手法の検討を皆さんと一緒に考えてしてきた。今日は今年度最後の委員会となるので、これを進める上での範囲指定を明確にしたい。これは、実際にデータベースを作成する場合、どこまでのクリエイターを見つけ出し、まとめるのかという事だが、これについては、かなり話をしてきたので、ほぼ、まとまってきていると言える。施設を基準に集めるという形だが、この探し方は、小学校区や老人ホーム、またラブリーホールにも情報を提供していただくと議事録に記されている。一番重要なのは、人材の発掘だが、それは、河内長野で生まれた人ないしは、河内長野にゆかりのある人、詳しく言えば、かつて住んでいた、

通っていた、2日3日でも滞在していた人も含めておもしろい活動をしている人達を注目したい。例えば、渡辺さんや南さんが継続して企画されているコンサートにレギュラーで招聘されるレベルの高いアーティストたちは河内長野をこよなく愛してくれていると思われるだけに大切にすべきだろう。

他に、河内長野の歴史遺産の魅力に引き寄せられた非常に著名な芸術家、文筆家たちも重要視したい。一方で、本人はあまり、自覚していないが、独創的な活動をしており、地域ではよく知られている人で、日常生活とともに表現している人達も取り上げたい。最後に、まちの記憶としての歴史上の人物、例えば、くろまろは、日本の文化を精神的に拓き、広い意味で文化を推進したと考えられ、ここに含めることにしたい。今すぐに、該当する人達がいるか、否かに固執せず、我がまちの文化創造を担う人達を色々な形で集める河内長野モデルを築き上げたいと思っている。また、対象ジャンルもハイアートから市民文化までを扱い、おもしろい人達を見つけていきたい。表現領域については、造形・音響・映像等だけでなく、言葉のアーティスト、地域の伝統技術や匠をはじめ、様々なものを探していきたい。調査対象範囲は、皆さんの発言及び幹事会のまとめである程度、決定しているので、どうしても入れたいものがあれば、後で申し出ていただきたいと思う。

今日はここをふまえて、次に向かわないといけない。河内長野モデルに即したデータベースを実際にどう活用するのかという部分だが、これは、提言書の必須項目となるため、しっかりと練り上げる必要がある。まだ議論としては少々、弱いので、きっちりと討議したいが、その前に、私の考えを少しお話ししたいと思う。我がまちには、こんなにおもしろい人達がいるという情報が出揃えば、その人達が活動基盤としている場所が特定できる。それらをバスで回り、訪問することができればと考える。河内長野には、ラブリーホールという立派な文化の殿堂があるが、スタジオやアトリエ及び事務所など活動の拠点を訪れることで、結果だけではなく、プロセスも味わえ、クリエイターとの交流も可能となるだろう。もし、私達がデータベースを作れば、そのようなツアーもできるのではないだろうか。我がまちの文化に興味を持つ人や企画したいと思う人達を育む仕掛けづくりとしては有効になるかと思われる。我がまちの文化に関心を持ち、自発的にリサーチをしたいと思う人達をもっと増やしていかなければならないと思う。こんなに我がまちには、色々なクリエイターがいることを知れば、家族や知人だけでなく、応援してくれる地域の人達も生まれるだろう。集まって終わりではなく、色々な場所をバスで回り、各々がワークショップを実施することで、実際に五感を使って体験してもらうこともできるだろう。データベースがあれば、ユニークなプログラムが組めると思う。また例えば、ディレクターもしくはプロデューサーが、どういうツアーを組めばひとつのテーマが浮上してくるのかを考え、A・B・Cコースでそれぞれテーマを設定することも可能となろう。本当におもしろいことをやれば、冒頭で紹介したフリーペーパーと共同企画で掲載されるかもしれない。このフリーペーパーを編集している現場を訪れることもできると思う。フォーマットを作ったり、あるいはどうやって探すのかという課題はまだあるが、まず、委員会としては大局的に見

ていく為に、データベースを作る必要があり、その後、実行委員会組織を立ち上げて動かしていく。

二番目は、活用法であるが、作ったときにどうしたらおもしろくなるかということを考えなくてはいけないだろう。それを今日は審議していきたい。そのひとつが、今、お話した河内長野の文化のサテライトをバスで巡るプランであるが、別の展開としては、生きたデータベースが出来れば、クリエイター単位でミュージックパークネットにプレゼンテーションブースを作り、活動拠点のアピールをすることもできるだろう。また、別室では、マッチングをはかるシステムをつくれば、コラボレーションも生じることだろう。誰かに存在を知ってもらい、他者と繋がりたいという気持ちを大切にしたい。これまでの活動領域から越境して実験してみたいというような科学反応を起す仕掛け作りをコンシェルジュが行うこともおもしろいだろう。交流することによりユニークな創造の回路を拓くような場を作ることに繋がる。さらにもっとおもしろく、もっと続けていくためにはどうしたらいいのか、誰と組んだらいいのかという時に、コンシェルジュがいればよいと思う。それを円滑にするために、送り手には、プレゼンテーション講座、繋ぎ手には、アーツマネジメント講座を開講してよいと思う。このようなことを皆さんの意見を集約してご提案させていただいた。これは両方ともデータベースがないと出来ないものだ。二つ提案をしたが、皆さんはそれが出来た時に、如何に活用し、どのようなアイデアを展開できるのかをお聞きしたい。

魚坂委員

私は、個人的には分からなかったけれども、今委員長のツアーをお聞きして、妙案だと思った。私は二十年ほど毎年ツアーに行き、必ず何か書道に関係ある所を訪ねていた。例えば、岡山の後樂園。あそこに「津田永忠碑」という有名な碑があるが、それを勉強したいと訪ね、そしてその実寸模型を作り、自分達で書いて、モニュメントにし展覧会をしたことがある。それを採寸する時にこっそり上らせて貰ったが、そうすると皆がいろんな事を奥深く、興味を持つようになった。またツアーとなれば、やはり物見たさ等そんな機会で、遊びつつ勉強もすれば、人事とは思えない親しさが生まれる為、これはいいことだと思う。色々な所に二十年行く間、皆さんも、「あそこに行った。あれは私の青春だった」と言ってくれたりする。この取組みは広がり、続くと思う。もちろん、拠点がありそこに集まるのが一番いいけれど、学校でも出前授業等こちらから動けば喜んで聞いてくれるようだし、ぜひ進めていただきたい。

谷委員長

ありがとうございます。人間は皆、物見遊山したいという願望がどこかあると思う。こんなに我がまちにはおもしろい人がいるということがわかれば、じゃあ行ってみようか、という気持ちを刺激出来る。また、各々の現場を訪れることで、結果だけでなく、その文化

が育つ空気をそのまま受け取る事が出来るという意味ではおもしろいのではないかと思う。

魚坂委員

また、長野に結びついてもいい。河内木綿と他にその木綿の型、三重県の白子だっただろうか。型の切り紙する所を訪ねる等も考えられる。

谷委員長

なるほど、ツアーをキーワードにして、河内長野にゆかりのあるものをベースとして、次に訪ねる場所を考え、更に発展させることもできるだろう。他に何か、データベースの活用の仕方という点でご意見はありますでしょうか。

山田委員

親子劇場でひとつの舞台をする時、その関連テーマを行っている人や団体を自分の力で探して、まわっていったことがある。日本の歴史というタイトルで河内長野の郷土を語れる人を探す必要があり、数珠つなぎで紹介して貰った結果、最後にやはり市役所の尾谷さんに帰ってきてしまった。その時に、もしこういうデータがあったらありがたかったなと思う。また、邦楽の竹の演奏会の時、河内長野は竹が名産で、竹関係を紹介されて数珠繋ぎに探したが、後で、もっとちゃんとした人がいるということを知ったことがあった。そういう時にデータベースがあれば、広がると思う。また、何かと繋がり、より豊かになりたいと思ってる人が多いと思うので、そういう意味では、それが必要とされ、見てもらっているのではないだろうか。先ほど紹介された冊子を貰おうと探した時に、それが次の日には家に届けられていたり、繋がりはずごいなと思う。フェイスブックでお店の人と一人知り合えば、河内長野の沢山のお店の人と繋がっていて、アクティブだなと思う。また、以前三日市のまちづくり交流会で、現在のお店の話が出ない為、私が自転車を通る範囲の知ってる店を地図におとしたことがあった。素人なので地図にまるをつける程度しか出来なかったが、こういうノウハウを持っている人がいればすぐにおとせるのでは。親子劇場でクリスマスの時にも、数珠繋ぎで次の楽器を探したことがあるため、親子劇場にも使えると思う。他に、ハイアートなレベルだと自分達が判断できる仲間を呼ぶ時に、どこに聞きにいったらいいかが分からないから、そういう人にも必要だと思う。

谷委員長

ありがとうございます。山田委員は親子劇場という場を育てられているが、オーガナイザーがひとつの場をプロデュースするために、色々な情報があればもっとおもしろくなるだろうというご意見でした。私も竹には非常に興味をもっています

魚坂委員

竹は河内長野に多い。初代の方は、天野酒の向かいに住んでおられ、現在は2代目の方が私ぐらいの年の方。竹は多いから、そういう方と接しられたらいい。

山田委員

以前私が調べたときに、何の為にデータを使うのか先に聞かれたことがあった。やはりその情報がないと相手も安易に応えられないし、個人的にやっている事が好きな人もいる。そういう意味では、ここまでは公開していいが、ここからは非公開という事も含め、聞いていった方がいいのでは。それでないとも相手もデータを出せないと思う。

谷委員長

情報を公開する上で、当委員会である程度、形式やマナーを考え、審議し、実行委員会がスムーズに運用できるあり方をしっかりと作らないといけない。また、どういう形で掲載するのか、当事者にもチェックをしていただき、問題が生じないようなかたちですめることがベストであろう。

千原委員

では、一体どういう形でやっていくのか、という部分が分かりにくい。

山田委員

こういうものを作る時、一人では出来ないことを、データ化することによって豊かになる、ということが漠然とした目的だと思う。私は太極拳もやっており、そこで交流していい事もあれば、嫌な事もある。けれど、交流した人にとってはさらに楽しくなっていく為、先程委員長がおっしゃったように、文化連盟が行っているような文化祭、公民館で行っている公民館まつり、あちこちの施設で行っているおまつり以上の、何か今までと違うものが出来たなら、少しは変わると漠然と思う。しかし、具体的には難しい。

松村委員

今日の委員長のお話で、やっこの文化振興計画推進の意味が理解出来てきた。ようやく実感として分かった次第だ。

小西委員

例えば隣に、文化的なおもしろいことやっている方がいた場合、この委員会でご紹介させていただきたいので、活動内容をお話してよいですかとお聞きすることになるのでしょうか。

谷委員長

データベースを作るための情報収集をひとつひとつをきちんとやるのが大切となります。

小西委員

活動してもらうことを依頼するというのではないのでしょうか。

谷委員長

いや、活動でなく、まずその人に光を当てるということ。その人に来てもらい、一緒にやるというわけではないです。別に実行委員会を組織し、取材してまわると思うが、本当に、自分のまちの文化がおもしろくなることを望んでいる人達が、どれぐらいいるかということになるかと思う。議事録にもあるように、前回、宝楽さんに世界民族音楽祭の実行委員会のスタッフの人数を質問したが、数人であるとの回答であった。例えば、芸大の学生が調査隊を組んで、リサーチを展開しても、学生は全国から来ている為、河内長野に対する愛の大きさは危ぶまれるものがあるだろう。たかだか、近いところの大学に通っているということだけなため、そこが心配であるということが正直なところである。やはり、市民の市民による市民のための事業で、果たしてどういう告知の仕方ですという人達、特に若い層を集めるのか、その問題がクローズアップされてくる。だから、見つけてきた人達にすぐ何かをやってもらうというわけではなく、まずその人達の実態調査を行いたい。行政や財団でも確認できない人をも発掘する河内長野モデルにこだわりたい。まず知らないと何も始まらない。知ればそれを材料として、考え、企画書を書き、そして事業を発案、実践し、それを広げるために話すことが出来る。そのために、まずは魅力的な人に焦点を絞ることではないか。ある程度、情報が集積したら、ジャンル別にするなどわかりやすくする必要もあるだろう。例えば音楽なら、西洋の楽器だけでなくインドの山奥の楽器や、ほら貝、音響的なものなど。それは検索することにより、色々出てくるようにしたい。年代別に検索することもできるだろう。データベースがあれば、編集によって色々な見方が出来るため、次にどう使うのかということも構想できよう。

しかし、まずは、ガイダンスをおこない、実行委員会を立ち上げるのが先決であろう。ガイダンスに耳を傾けてくれる若い人達がいる所に飛び込んでいかないといけない。大学や高校、中学校や小学校でも出来るかもしれない。教育委員会が関わっているため、趣旨さえ、きっちりしていれば、話が早いと思う。若い人たちが老人ホームに出向き、すごい作品を制作している名物おじいちゃん、おばあちゃんを探し、交流を深めることもおもしろいだろう。芸術の専門教育を受けてない人がとんでもない発想で作品を創っている驚きを感じて欲しい。福祉は福祉のネットワークがあると思うのでその繋がりを探してもらうこともするが、事前に合意ができれば、ダイレクトに訪問することもしたい。当然、先ほど山田委員から言われたように、ユニークな表現をしているおじいちゃん、おばあちゃんが掲載されることを嫌と言われる場合があるかと思うが、その場合は名前を入れず作品の

写真と文章のみで紹介する等工夫したい。

ただ、一緒にデータベースを作ってくれる調査隊は、コンサル担当会社にまる投げするわけにはいかないの、自分の町のことを知りたいという想いや、誰かに、何かに、繋がりたいと気持ちをもった人達を探さないといけない。それは本当に出来るかどうか不安だが、出来ないと断定してしまえば、なにもプランニングできない理念だけで終わる委員会になってしまう。もしデータベースの活用の仕方まで検討することが難しければ、ガイダンスはどこでどういう風にしたらいいのか、というような考えを研ぎ澄ますことでもよいと思う。でもいいと思う。これは、三番目の柱となり、極めて重要な項目だ。おそらく、プリントや広報に載せるだけでは駄目だと思う。例えばラブリの記念補助事業として実行委員会が、ギャラリーでプレゼンテーションをおこなったり、マッチングの会を持つ等、着地点が必要だろう。その場所でワークショップ漂流教室で作ったものも展示することはできるだろう。そうすれば、企画書として立ってくる。そこまで持っていきたいが、やはりコアスタッフが必要となる。お金を度外視しても、誰よりも一番最初に見つけられる醍醐味を楽しみたいという人や、逆に、出てきたものをひいて眺め、如何にツアー作ってみようかというようなことを考える、そんな若い人が出てきたら、芸術文化に関してこの町も安泰だと思う。やはり借り物ばかりでは心もとない。立派な人達を継続して招聘することも大切であるが市民が自らの力で動かねば真の意味で文化は育たないであろう。もうひとつ、委員会は第4次総合計画でも市民文化を唱えていることをふまえ、河内長野モデルを作りたいという想いがある。私は、ハイアートを脅かすような存在に会いたい。例えば、うちの大学の教授陣が驚くような人が老人ホームにいたり、場合によっては小学校3年生の中から見つけたい。その人達を私は学大で紹介したい。文化振興計画がある行政はそれほどないので、誇りを持たないといけない。だが、コアスタッフを募集する伝え方が重要であり、財団や市役所、特に教育委員会、地域住民の方々や場合によっては市議員、特に文教委員といった人達の協力を仰ぎ、オールスター体制でいかなければ、なかなか、実現できないと思う。

川上委員

データベース作っただけが一つの事業で、そのまま死んでいる市町村は結構存在する。先程山田さんがおっしゃった様に、匠・アーティスト・通常の技術者、何であろうがある人達に声をかけ、こういうことをやり、そこにあなたを紹介したいと言われた時に、躊躇する方も当然いるだろう。ということは、まず申しかけていくことにより集まった人達を対象として、データベースにしていくという方法を同時に進行しないと、机上のデータベースで終わってしまう。委員長がおっしゃっていた行動する委員会というのは、そういうことだと思う。文化数珠繋ぎ大会でも、高校生の子達が集まって行う催しでも、何でも構わないが、その切り口に集まってきた人達をデータベースに登録していく。すると、集まった段階でその人達はメッセージを出しており、生きていて、決して死んでいない。市長と

以前1時間半ほどお話したが、市長も今色々お考えになっていて、蓄積されているもの、今ある物を、今後はどうやって発信するのかということを考えてらっしゃる。それは全くそのとおりだと思う。河内長野の歴史や文化、その資産があるということがようやく整理が出来た今、それを抱えたままいくか、それとも活用し、外を向いて河内長野がこうだというメッセージを出すのかは、大きな違いだと思う。今我々がデータベースにしようとしている人材というのは、外を向いてメッセージを出せる人達を発見し仲間に入って貰うということだろう。そのためには、数珠繋ぎで紹介していく作業も必要だが、それと平行し、催し物を作っていく中に必ず人は集まってくると思う。動きのあるところに動こうとする人達は集まる。その人達をデータベースにすることは大事なことで、常にメッセージを出せる状態を作り、集まって貰う機会を作っていけば、一度には十人二十人かもしれないが、それを繰り返していくことにより、文化の敷居を下げることにもなる。色々な人達が色々な場所でやっている所に、市民を始め市外の方も含めて、入ってこられる場を作ってくれる。そしそれを作っていけば、既に河内長野の人材を使ったイベントになっていくだろうと思う。だからその場を作る事の方が、手っ取り早いのではないだろうか。そして集まった人に、データベースに載せてもいいかを聞き、また参加出来なかった方々に対しても、こういう事をやったという一つのサンプルとなるのではないか。それを誰が仕掛けるのかという事が問題で、おそらく新学年度から土曜日に授業が入るだろうから、土曜日に若者を集めて騒ぐということは非社会的な現象になる。そうなると、婦人部隊に活躍していただきそれでもとの形を作り、色々な世代を呼び込んでいくという仕掛を作れば、何か出来るのではないだろうか。土曜日に授業が始まればゆとりがなくなる為、その文化に対するゆとりのある時間を、今やろうとしている人達が提供できるという、逆に生き残りもできると思う。やはり動いていかないと、ペーパー上だけでは駄目だという事を今痛切に感じている。だから、データベースに載せないで欲しいという人達もいると思うが、その人達に一番わかりやすく理解して貰う為にも、物事を起してそこに参加いただき、その方の携わっているジャンルを、何か形にしていくという。それで参加してくれますかと聞く事がいいのではないかという気がする。

谷委員長

進行形でデータベースを作るというのは、非常に手っ取り早い。またそれをするがゆえにあなたの存在が非常に重要となるということは言えるが、いかんせん、それをひとつの事業として予算化しないといけないという問題がある。私は知るということを大事に考えている。動いてまず、情報つかまなければ、企画を立案することはできない。ただ、川上委員いったように、情報の取り扱いという部分は重要なので、きっちり本題が分かるような準備や、第一弾だと分かるようなものを作らないといけないかもしれない。

宝楽委員

河内長野には文化があり、それを誇りに思っているにも関わらず個人で留まっている事が課題となっていたと思う。ということは、文化を評価・振興させていくためには、まず見える化し、情報を公開するという話になっていたと思う。河内長野の文化度が高い事は経験して分かっているが、ある一定の数値、又は形として出すことが、市民のモチベーション高める第一歩として必要だと思っている。データベースというとインターネットに偏っているように聞こえるが、データがそこにあると知っているのは結局人であり、前回もコーディネーターとなる人が必要だろうと言っていたが、その作る過程に市民がちゃんと組み込まれていることが大事。河内長野市民全員が文化度を高めることは無理だが、一端情報が集まる状況を作れば、見えてくることもあると思う。私は、それまで文化に関わったこともないのに、河内長野民族音楽祭に巻き込まれたことでいきなり音楽にはまり、音楽は敷居が高くないんだという経験が得られた。やはりそういう体験がないまま大人になった人は大勢いるだろうから、きっかけや状況を作らないと、何も変わらないと思う。子どもが二十歳になった時、未だに河内長野の文化は見えないと言っていたくない。まずは、今までなかった、情報が見える状況を作れば変わるのではないだろうか。話しは変わるが、例えば、データベースに載っているアーティストなり芸術家なりを、必ずイベントするときに使うという条例を作るとか、さらに踏み込んで、河内長野市内の小中学校はデータベースに載ってるアーティスト以外使ってはいけないとする。また、小中学生皆ラブリーホールに集まる日を作り、そこから河内長野のクラシックを大ホールで楽しむ場面を作るなど、使い方を先に提案しておけば、データベースはこんなふうに使えるんだというモデルが生まれると思う。市に根ざすため一番よいのは、生活者により近い所でその仕組みを使うことだと思う。小中学校で制度の中でデータベースを使う仕組みを作る、また、総合学習時間に何か授業をする時、頼むルートが出来るだけでもいいと思う。そういう新しいつながりを作る事を、データベースが背中を押してくれる。教育委員会が見ている文化の領域だからこそ、まずは子どもの領域から始めてみるのはどうだろうか。すると、くろまるの所とも関わってくると思うが。そういう具体的な所を話していけば、河内長野市にこんなおもしろい人いるという事が分かると思う。また情報の扱という点で、住所・電話を公開すると言われれば皆躊躇すると思うが、例えば、その人とアートにまつわるストーリーを見せる等の見せ方の工夫次第だと思う。そして、データベースを使いたい人は企画している人であったり、情報を欲しい人だと思うから、その人達が欲しい情報を先に準備する、という事を指針にすれば気が楽になると思う。一般市民ではなく、どの辺の層をターゲットにするのかは大事だ。また、何のためにやるのかという話はこういった場に出てきやすいが、そうではなく、とりあえずやってみる事が大事だから、情報の集め方にしても、円卓会議で情報収集する事を提案したい。円卓会議というのは、皆で知識を出し合うのではなく、その日の題材を決め、情報の集め方もイベント化していくということ。だから私が最初に言った、使い方の見本を見せるということ、そして情報の集め方をイベント化する

という事も、提案として出していくことでいいと思う。その中で、評価軸も出来ていくと思うので、アーティストが活躍できる現場はホールがあるけれど、では公民館でもっとこうした方がいいんじゃないかという新しい提案も持っておかないといけない。

川上委員

しかし問題は、今宝楽さんが言った事を誰がリードするのかだと思う。委員長が話されたように、プロデューサーやコーディネーターをつけるのか、そしてそれは若い人なのかという部分を組まなければ、次に進めない。

宝楽委員

ただ今日の話は、どう活用するかモデルの話であって、誰が具体的にやるのかという部分はまだかと思う。一つの場とひとつのトピックでなければ議論が進まないのでは。誰がやるのかは皆不安だと思う。

川上委員

けれど、道筋をある程度つけなければ次回の委員会の役割がなくなってしまうので、それも含めて考えるべきだと思う。住む人が実際に関わって貰えるのか、そこまで追求しなければこのプロジェクトは理念としてあるだけで形にならない。例えば谷委員長がお話されたような、学生も含めた巻き込み、そこまで考える事が必要じゃないだろうか。

谷委員長

先ほど、本当に自分の町を愛する人材のことをお話したが、これは発言に若干根拠がない、希望を含めたものだった。だからやはり、ガイダンスを丁寧に行い、環境を整備しなければことは推進できないだろう。しかし同時に、出来ないかもしれないということも言っても、何も意見が出なくなるし、また計画が始めに戻ってしまうので、とにかく、突破口をあけ、まずは、人に焦点を絞り込みたいと思う。

魚坂委員

先に何をするか決めれば、年齢や人選が変わってくるのではないか。例えば、この間書初め展を見た時、学校によって筆の手入れが段違いだった。そして豊かな字を書いている学校には、やはり書道ができる先生が入っている。出前授業に筆の手入れの仕方を注意したら、次回はすぐ直っていた。以前インターネットで調べた時に、横書きの書を、右から読まなければいけない所を、左から読んでいてそのまま原稿として載っていた事がある。だから目的によって、若い人がいい場合もあれば、長い歴史等にはそうでない場合もあるのでは。例えば天野酒。これは金剛寺にあったわけだが、私達の記憶では、西條さんが一部扱っていたと思う。そうしたら、一説に金剛寺の泉州だったという話もあるということ

聞いた。そういう風に、伝えている事が間違っていることもあるかもしれない。だから、プロジェクトに対して人選をどうするのかは、その都度テーマによって決めないといけないと思う。私が小学校で、筆の手入れが悪い事に気付いて注意出来たように、テーマを選んで人選をしていけばいい。そしてそれは、この委員会が中心になって行っていけばいいと思う。

谷委員長

テーマによって人を決め、やって欲しいことから手を付けるという提案。コーディネーターやプロデューサー気質を備えた人達に早く会いたいと思う。

宝楽委員

確認だけれど、まず情報を集めるという事に関しては、この場で合意が出来ているとの理解でいいのだろうか。その合意が出来ているのであれば、じゃあどんな形で情報を集める仕組みを作るのかという議論入ってもいいとは思いますが。既に終了間近だが、もし疑問がまだ渦巻いているならば、きちんと解消するべきかと思う。

川上委員

会議のテーマが「作成」とあるし、それは皆さん既に合意しているとの理解でいいと思う。この間愛媛の坊ちゃん劇場で、そこの支配人と営業主任に細かく話を聞いてきた。その劇場では、四国の各県の出来事をテーマにオリジナルの創作を行い、これが一番の強みとなっているが、この春に7年目を迎えてもまだ赤字ということだった。その劇場は、ある企業の社長が東北のワラビ座の公演を見て、いたく感動し、文化は必要だということで自分が投資にもった建物の一角に建てたものらしい。けれどその劇場のキャストオーディションはいつも東京で行い、支配人はワラビ座の方、営業部長のみ地元の自分の所の方ということだった。支配人は東京でオーディションを行い、美術デザインも四季の方に協力して貰う等で話題を作って、愛媛で公演するスタイルとなっている。けれど、地元のキャストはゼロということだった。そこが問題で、地元のお芝居をやりたい、音楽をやりたいという人に対してのテーマメントが一切ない。なぜそれやらないのかと聞けば、人材がないという事だったが、それでは駄目だというような話をしてきた。四国の各県の出来事をテーマにオリジナルの創作を行っている部分はいいなと思いき、そのスタイルは河内長野でも出来ると思ったが、それ以上に、やはり地元の人達がそこに参加をするということを行わないと意味がないと思う。これは私の穿った見方だが、その方法をとっていないから7年間やっても赤字なのではないだろうか。つまり地元でものが生きてない、地元とのつながりが出来てないと感じた。そしてこの話に戻ってくるが、では地元でどう人々を繋いで外にメッセージを出すのかという部分を、もしコストがかかったとしても確実に押さえないと、おそらく無駄税になってしまう。そこが、この間見学して話を聞いたときに、痛切に感じ

たことだった。公演に関わるキャスト・スタッフは得をしても、それは地元の人間でないという問題。そこを改善して、文化を材料とし情報発信することで市外からも人が来て、上手くいくのじゃないかということをも痛切に感じた。

谷委員長

地元のキャストがないのはさみしいと思う。

川上委員

そう。支配人のねらいは、東京で話題を作って客をひこうという事が最初からあるため、それはそれで構わないと思うが、ただではなぜ愛媛でやるのかという所が分からない。だったら東京でやったらいいという話になってしまう。

谷委員長

だから、先ほど言ったように、芸大の学生達だけじゃあ弱いという事だ。

川上委員

もう一人、レストランをやっている方とお話した。そこは先祖代々文房具屋を営んできた店だが、その方は、東京の味や大阪のような店作りは一切せず、愛媛の店作りしか考えていないと言った。使う材料も全て愛媛産。東京から来た人にどう思われても構わないから、愛媛の場所で愛媛の色を使って、愛媛の人達に働いて貰い、そうすることでここにいる意味があるとおっしゃった。東京や大阪の店を目標にしようとはしていない。彼はすごいと思う。料理もおいしかった。そしてその方も、文化に関わっている人達のネットワークが欲しいから、四国各県を歩いて地元の情報を集めていた。

谷委員長

9時になったため、そろそろ今年度の最終回という事を踏まえて、まとめていかないといけない。井上課長、次の回はいつだろうか。

井上課長

年度替わって5月くらいになります。

谷委員長

このメンバーの任期は6月となるので、委員の入れ替わりがあるものと思われます。これについては、年齢など色々規程があるようですので、また、市の方から話があると思いますが、委員長職も含め、一端白紙にするということになると思う。また、委員の人数が定員に達していないので、新しい委員が入ってこられる可能性もあります。

井上課長

そうです。

谷委員長

では、ここにいるメンバー全員でやるのは次が最後ということになります。7・8月くらいに、課長を中心に財政担当のヒアリングに応じていく予定ですが、その前までに、提言書を作成したいと考えている。今までの内容を幹事会である程度まとめており、また皆さんの意見も吸い上げているので、概ねまとめられると思う。それを踏まえ、今年の予算時に提案を行い、これは、前委員長のアートセンター化の次の提案という形になるかと思う。アートセンター化の提案については、私は、自然発生的に要望が大きくなっていき、南花台の廃校などまちの文化基金的な発想で、色々と提供してくれる場所ができてきたら、そういうものも再度、検討したらよいと思う。そして、そのような活動がもっと出てくれば、全て市のお金でやるのではなく、自律したスタイルが確立できるかもしれない。そのような文化の活動拠点こそ、大切ではないか。

5月の次はいつも3ヶ月おきのペースで開催しているので、9月の頭くらいになりますでしょうか。

井上課長

次回のヒアリングとの関係、その進み具合によると思います。

谷委員長

それは、7月の終わりですか。

井上課長

ヒアリングは、8月です。

谷委員長

では、やはり8月終わりか9月の頭という感じになるかと思います。その時には、また一つの曲がり角を迎えるかと思います。いよいよ、総まとめに突入となりますので、何か気いた点があれば、市役所経由でも構わないので、お知らせいただければと思います。

井上課長

私どもの方から報告がございます。人事異動がありまして、担当の東畑は変更なかったのですが、以前担当させていただきました内田という者が、2月1日から滝畑の方へ異動しております。今回の人事異動で戻すこと出来ませんでした。また、3月から産休で復帰して

きた者が内田の後任の予定だったのですが、昨日の内示で異動になりまして、4月から他の課にいた者が東畑の下に入ることになりましたので、よろしくお願い致します。次回の5月の時には出席させていただくことになるかと思います。

谷委員長

最後に、私の方からご案内があります。今、なんばパークスで展覧会を開催しておりますのでご案内させていただきます。あと。数日で終わってしまうので、参考のためにフライヤーをお渡させていただきます。今回のテーマは、ボーダレスということで、分類不可能な表現を模索している作家を本学の卒業生の中から中心に選びました。例えば、絵画に取り組んでいるのに、印画紙を用いて作品制作している者や既成の地図や英字新聞に、HOPEの綴りのみを残し、あとは全部きれいに塗りつぶす作品を展示しています。いる。大きな賞に受賞するなど国内外で活躍する次代のアートを担う作家の作品が並んでいますので、もし、お近くに行かれる方がございましたらお寄りいただければと思います。

川上委員

8時までやっているのですか。

谷委員長

はい。数年前に大学を卒業して札幌市芸術文化財団に就職した学生が、札幌ハプニングというタイトルで街頭演劇の活動をはじめ、海外でもそれを催すようになり、ついに、財団の正職員をやめ、現代アートを本気でやるため、現在、上海を拠点に力を尽くしています。非常にユニークな作品なので、もしよろしければ、見ていただければと思う。では、長くなりました。皆さん、各自で色々と練り上げておいて下さい。とにかく、前に進めていきたいと思しますので、ご協力の程よろしくお願い致します。ありがとうございました。